

 今月のコラム

## 地球温暖化

厳しかった残暑も過ぎ去り、心地よい秋の到来である。今年の夏は洞爺湖サミットの開催もあり、新聞紙上で地球温暖化・二酸化炭素の削減等の地球環境問題を取り上げた記事が多かった。一方では、クールビズも定着し、私もノーネクタイで通したが、家に帰ればクーラーざんまいの相変わらずの生活を送ってしまった。我々は文明の力を使い、暑い夏でも快適に過ごせる術を知っている。クーラーを効かしてドライブ・冷蔵庫の冷たいビールは何よりもあるが、この当たり前と思っている生活が地球温暖化を加速していることを忘れてはいけない。

地球温暖化とは全く無縁の南極・北極で、そのツケが顕著に現れているのは皮肉である。カナダの棚氷が大規模に崩壊、この夏に23%消失との記事があった。棚氷とは、陸の氷床や氷河が成長した洋上の氷のこと、214平方キロが消失した。その中には約4500年前の棚氷もあったという。地球温暖化が4500年の歴史を溶かしてしまった。また南極の年平均気温は、50年で3度上昇地球平均の0.74度に比較して急激に変化している。その結果、藻類が大発生、氷河をピンクや緑色に染め、岩肌にはコケが広がり、カラフルな南極大陸となっているそうだ。さらにネパール・ヒマラヤの3割の氷河が融解し、その溶け出した水で氷河湖が急速に肥大化しているらしい。氷河湖が決壊すると下流の集落が洪水に襲われる危機があるという。

15万年という新人類の歴史の中で捉えるならばこの数十年間で起こっている変化は、想像を絶する驚異的なスピードである。しかしながら、日常生活の中では実感し難く、つい忘れがちになり、無関心になってしまっている。とりあえず、この冬はウォームビズ一枚厚着し、地球環境問題への意識を高めたいと思っている。



桑田博史( (株)ハイポネックス ジャパン)

地球温暖化防止への有効な手段として、ガソリンからバイオエタノールへの切り替えの動きは急である。緑地をサトウキビ畠に変えてバイオエタノールを増産、さらに収穫を上げるために多量の肥料を消費、ひいては肥料価格の高騰をまねくとは、なにか訛然としないものがある。肥料価格の高騰は根本的には人口増加、食生活の変化であると思うが、バイオ燃料そして中国関税問題が拍車をかけている。原油価格の高騰、それによる各種プラスチックの値上げも加わり、園芸業界は大変に厳しい状況に曝されている。生産者、園芸資材メーカー、園芸店、三位一体で、この厳しい環境を克服していかねばならない。

園芸は地球温暖化防止に貢献できる。今、植物の人気は、きれいな花から収穫まで楽しめる野菜苗にシフトしており、食への安全・安心を求めてこの傾向はさらに強まるだろうが、植物にはもう一つの、忘れてはならない役割がある。植物は呼吸し二酸化炭素を放出する一方で、二酸化炭素を吸収し光合成している。冬場は光合成が低下し、二酸化炭素の放出量の方が多いが、春になると多くの二酸化炭素を吸収してくれる。従来の園芸品種と比べて、二酸化炭素は4~6倍、二酸化窒素は5~8倍、ホルムアルデヒドは3~4倍も多く吸収する品種が開発されている。環境良化に効果的な植物はまだまだ、たくさんあると思うが、今後も続々と開発されることを期待したい。

皆が求める安全・安心、それは地球が健全に保たれてこそ得られるものであり、環境浄化植物を群とした売り場作りが提案できれば、昨今の世相からして注目度の高いものになると思う。環境問題は忙しい生活のなかで置き去りになりがちである。植物を育てる楽しみに加えて、環境保全への意識を促すことができれば、一石二鳥で、それが園芸マーケット拡大に繋がっていけば、喜ばしいことである。



## NEWS

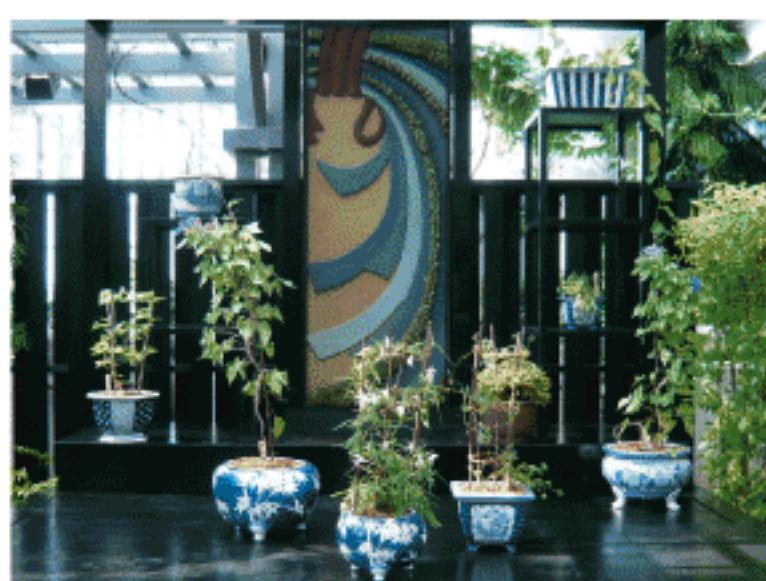
## ネオジャパニエスクが飛び出す『伝統園芸ルネサンス2008』 奇跡の星の植物館で11月3日まで開催中

日本固有の伝統園芸・文化を紹介・継承するとともに、伝統園芸と伝統工芸・アートとのコラボレーションにより伝統的かつモダンな伝統園芸と伝統工芸の新たな方向を示す試みを行っている、「伝統園芸ルネサンス」が、今年も奇跡の星の植物館（淡路島）で開かれている。9月13日～11月3日。

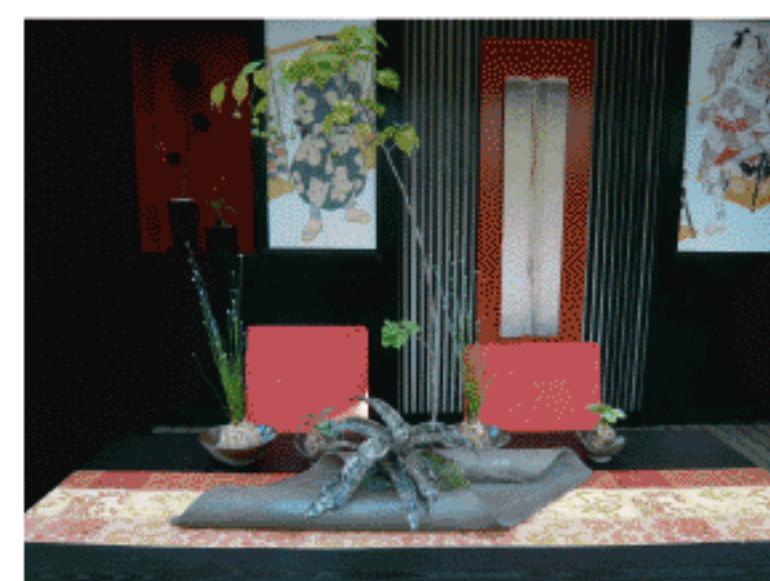
盆栽界の名門大樹園、平松春松園による「名品が伝える盆栽の世界」をはじめ、左官の久住有生氏と奇跡の星のプロデューサー辻本智子氏のコラボレーションで創りあげる「盆栽一小宇宙の世界」、源氏物語誕生1000年を記念し、1000m<sup>2</sup>のショースペースで土壁緑化「兵庫五国花絵巻」やお香の香りで“雅の世界”を演出する和のモダンガーデン「光源氏の庭」など、多彩な展示が行われている。伝統文化と、伝統技術、精神性と現代技術の融合「ネオジャパニエスク」、新しい園芸文化が開花しそうだ。



↑自然が豊かであった江戸時代、人々はヨーロッパの人々が花の色、大きさを好んだのと比べ、“葉がら”“葉の形” “器”を楽しんだ



あさがおも“正木”より“出物”  
好み、美しい器で楽しんだ



テーブルコーディネート気分で草盆栽を楽しむ～伝統園芸植物と見まがうサンセベリアを立杭焼きの器に

## 新規需要を開拓する、初心者向けベランダ菜園システム 『ベジタクル』 グッドデザイン賞受賞

(株)プラネット（東京都渋谷区）は、土を使わない初心者向けベランダ菜園システム「ベジタクル」を開発した。

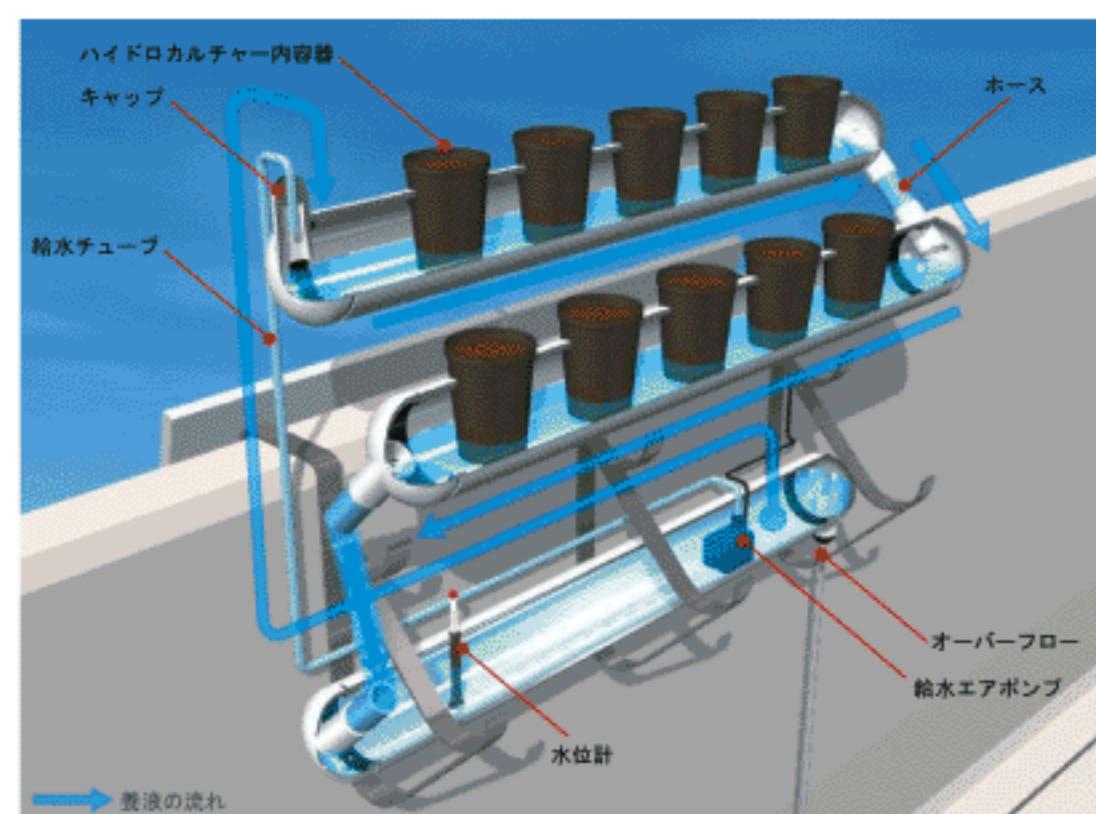
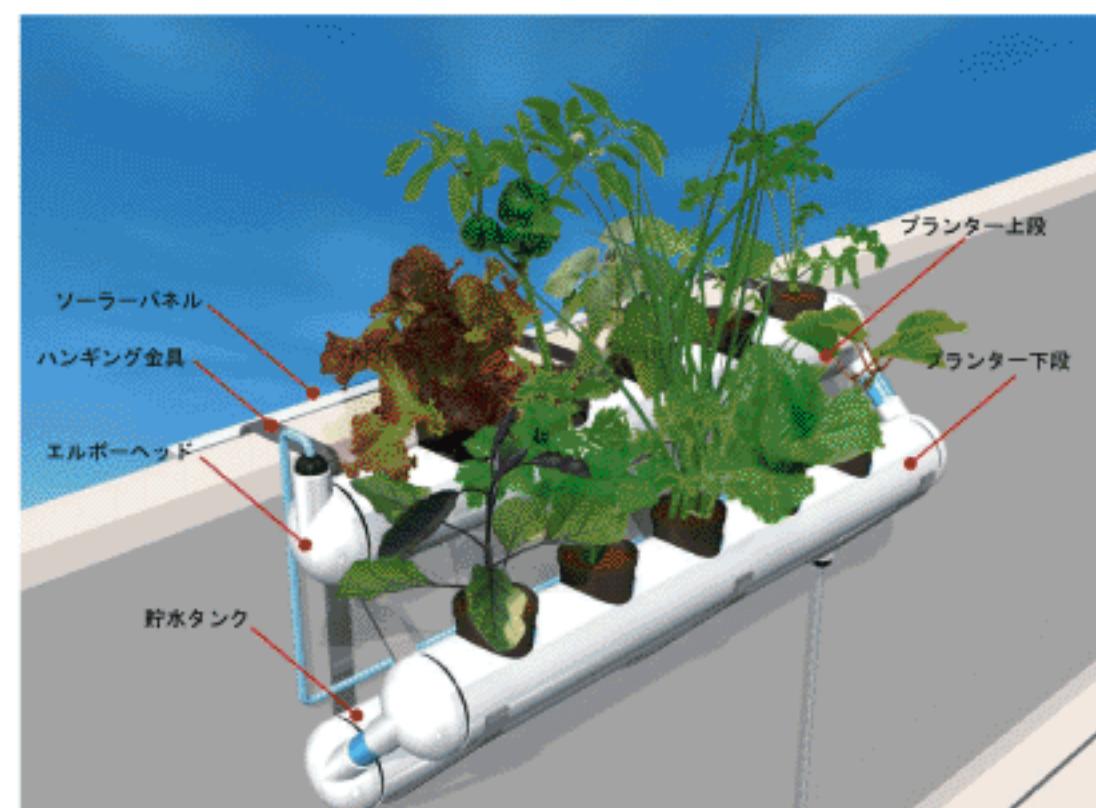
このシステムは、野菜農場と消費者とのリレー栽培サービス「ベジタクル」として開発され、経済産業省から「グリーン・サービサイジング事業」として採択され、来春より本格的に発売を開始される。

「ベジタクル」サービスは、プランター栽培キットをレンタルし、ハイドロカルチャー仕立ての野菜を苗の状態で送り、家庭で栽培、収穫が終われば、年間計画された野菜苗が届く。また、使い終わったポットと植え込み材は、分別洗浄して再利用する、というもので、廃棄物は収穫後の植物（可燃ゴミ）だけというシステム。

「ベジタクル」は、生産者からのアフターフォローもあり、初心者でも安心して園芸を楽しめる、栽培キット付き“リレー栽培”方式として開発された。

植物栽培は、苗半作と言われているように、苗づくりがその後の生長に重要なポイントになる。この期間を、生産者の農場で無農薬栽培し、半成品の状態で送り、消費者は育てる楽しみと、収穫して味わう喜びが得られる。ミニトマト、ナス、ゴーヤなど、前もって選んだ野菜苗が適期に届き常に楽しめる安全・安心の野菜栽培サービスである。

↓高層住宅向けベランダプランター





kaede カエデ

2008 10 OCT. Vol.18  
NPO法人ガーデンを考える会 会報

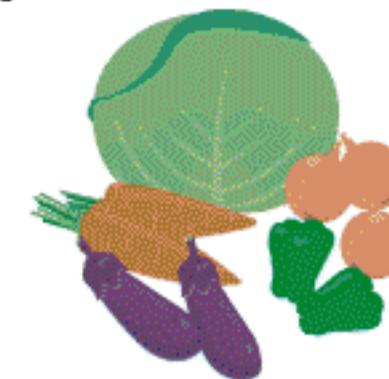


## 2009年1月セミナー開催決定！

※詳細は決まり次第ご案内いたします。

- \* NHK趣味の園芸でおなじみの、藤田智さんをお迎えして、野菜にまつわる”カラダにおいしいこと”、”おもしろ雑学”など、ビジネスにも役立つ知って得する情報を、お話していただきます。
- \* お客様一人一人にあった園芸スタイルを提案しメディアでも活躍中の深町貴子さん。毎日の生活がわくわくするような園芸（ポタジェガーデン）をどのように提案していくか、”新しい園芸”についてのヒントが満載です。

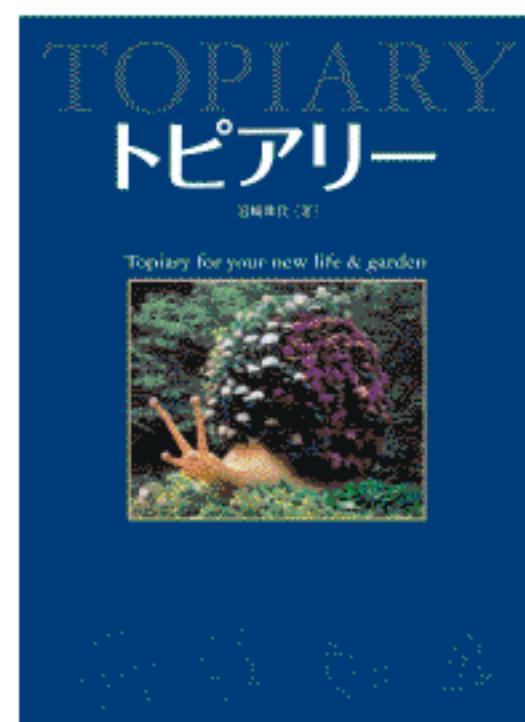
開催日：2009年1月20日（火）  
時 間：15:00～18:00（名刺・情報交換会18:00～）  
会 場：京都市 パルスプラザ内4階ラウンジ  
名刺・情報交換会 パルスプラザ内2階レストラン  
講師：藤田智さん（恵泉女学園大学園芸文化研究所准教授）  
深町貴子さん（有限会社タカ・グリーン・フィールズ取締役）



## 新刊書籍のご案内



←「続！使ってみたいガーデンプランツ」  
A5判 オールカラー144頁 安藤正彦 著  
定価 1,800円（税込）



←日本で初めての発刊！「トピアリー」  
B5判 オールカラー144頁 宮崎雅代 著  
定価 2,100円（税込）



←F A J 20周年記念誌  
「花・緑・人 出会いの20年」  
A4判、126頁オールカラー

## 会員紹介

<http://www.toho-leo.co.jp>

### 東邦レオ株式会社

都心部の都市緑化市場を対象に、屋上緑化、壁面緑化をクライアントの意向に沿って、企画設計から施工、その後のメンテナンスまでトータルにサポートしています。

お問い合わせ ☎170-0004 東京都豊島区北大塚1-5-15  
TEL 03-5907-6628 FAX 03-5907-5505

 会員コラム**園芸業界の発展は業界一丸となった環境への取り組みから****大林修一 (株)プラネット****1. 植物の効用の認知と消費者啓発活動を**

植物の効用は、光合成による二酸化炭素吸收以外にも、シックハウス症候群が原因のVOC(揮発性有機化合物)の吸收、視覚疲労の軽減、自然の加湿効果(湿度調整付蒸留水の加湿器)、快適性、知的生産性の向上などから園芸療法に代表される癒し効果など様々報告されています。これらの研究報告内容を業界人は認知し、消費者へいろいろな場面で啓発する必要があると思います。消費拡大は、植物の鑑賞価値意外にも環境、健康といった価値の意識が高まれば大きく消費拡大できるのではないか? たとえばマンション住まいの人は庭がありません。環境、健康を考えれば、ベランダへの花、野菜、樹木から各部屋への観葉植物まで潜在マーケットは大変大きいと思います。潜在から顕在化させ消費拡大するには、普及啓発の活動を生産、流通、販売と一緒にやって行う必要があると思います。

**2. 環境負荷削減の取り組みの徹底を**

園芸・造園業界は環境を良くする事業だから、唯一の環境創造産業だと環境本に書かれています。業界にとっては今後大変明るい、可能性の高い事業発展が予測できます。ただ、事業を行う上で環境負荷も数々出しています。どのようなものがあるのかを洗い出し、環境負荷軽減の取り組みを行うことをしないと、事業発展へとは繋がらないと思います。

まず大事なのが、プラスティック鉢、流通トレーと土の廃棄問題が挙げられます。リユース(再利用)、リサイクル(再生)する仕組みを生産、流通、販売が連携して行う必要があると思います。輸送、暖房等の燃料は原油高による経費アップも問題ですが、二酸化炭素を出しているわけです。生産分野では適地適作分業リレー栽培等の検討や、農薬、肥料を必要最小限で行う技術も必要だと思います。環境負荷軽減の取り組みとその理解は、経費節減にも繋がることですので、この認識と取り組みが必要になると思います。

**3. 待ち組みではなく、積極的な行動の結集が消費拡大、業界発展に繋がる**

現在の社会では環境意識が大変高まっています。二酸化炭素削減の意識が高まり、植樹によるカーボンオフセット、家庭のロハス意識の高まり、企業のCSRの取り組み等、植物分野に関して追い風だと思います。そのためにも植物の効用の消費者啓発と、環境負荷軽減の取り組み活動を業界一丸となって行なうことが急務だと思います。ドイツではこれら活動の成功事例もあります。海外からも学ぶ必要があります。業界や各事業の繁栄につなげるためには、数少ない人の訴えや行動ではなかなか進みません。業界全体で理解者が増え、一丸となって、積極的な行動が必要になります。待ち組みではなく、利己ではなく利他の精神で積極的な行動をする人々が増えて、結集することがパワーを生み、真の業界発展に繋がることだと確信しています。

 事務局だより

10月、11月は、ガーデニングをはじめ全国各地でイベントが盛んに開催されているようです。農作物も情報も豊穣の秋ですね♪

NPO法人ガーデンを考える会事務局  
名古屋市西区名駅2-25-10  
TEL 052-571-7911 FAX 052-571-2208  
E-mail npogarden@green-joho.jp